

# G3 のツイッター その11

烈剛河内 竹井 保満

仏国の風刺週刊誌シャルリ・エブド事件、邦人の拉致虐殺と、一月に相応しくない事が起こりました。色々な原因を言う知識人、人道主義を唱えるジャーナリスト達、生死をかけて戦っている者どもにとっては、何でも有が当然の事、何万人も焼き殺した原爆も有ったのですから。いろいろ変わった考えを持つ人と同じ地球上に住むのは難儀なことです。

殺す殺されるに比べれば、小さい事ですが、我々日本人に投げかけられた大きな問題です。大量に販売されている食品に異物が混入していた事で、テレビや新聞で報道されています。食品に一匹の虫が混入されていたと言うだけで、責任者が平謝りに謝るのは未だ良しとしても、何万、何十万食もの食品を回収し廃棄するのは如何なものでしょうか、日本の食糧の自給率は僅か 26% で、後は世界の国々からの輸入で賄われています。栄養の一人当たりの消費の一番はアメリカで、次が EU、我が国は三番目ですが、食糧の廃棄率はなんと世界一です。世界で 9 億人が栄養不足に苦しみ、幼子が餓死している処があります。わが国でも飽食の陰で、わずかな年金で細々と暮らしている人もいます。企業と家庭との廃棄食料は約 2000 万 t だそうで、11 兆円を無駄にするばかりか、さらに廃棄処理の費用は何と 2 兆円もかかるのだそうです。

腐敗したものとか毒入り餃子のように、健康被害を及ぼす食品は厳しく監視管理されるべきですが、健康に被害がないものは、同じ工場で作ったので気持ちが悪いなどと言わず、もっと大らかに対処出来ないものでしょうか。子供のころは、米にはコクゾウムシの成虫や幼虫、野菜には青虫、果物にはコメツキムシ（叩頭虫）など知らん顔で一緒に食べました。今でも地方によってはイナゴ、ザザムシ、蜂の子、ナメクジと兄弟のエスカルゴも食べています。

この問題は、清潔好きの国民性が過剰なまでに昇華したのでしょうか、加工食品を買う方が簡便なので、毎日の大事な食品を、人任せの蔓延がこのような状態を作り出したのでしょうか、たった一匹の虫が入っていたというだけで、大騒ぎがネットに乗り、悪酔いのマスコミが騒ぎたて、企業を休業や廃業に追い込むのは、どう考えても異常です。

たとえウイルスや悪い細菌が入ってきても、健康な人間には、十重二十重の防御網が備わって排除してくれます。面倒でも、トランス脂肪酸（マーガリンやショートニング）や、有害な食品添加物などの入った工場生産食品より、材料を吟味して、愛情の入った家庭料理で、健康で素晴らしいアンチエイジングを楽しみましょう。